

特集 第1回ロンドン万博  
関係コレクション



第1回ロンドン万博（1851年）会場に集う人々

CONTENTS

第1回ロンドン万博関係コレクション

図書館さんぽ 第1回「広告図書館」

VOICE

LIBRARY NAVIGATOR

都心キャンパス紹介～市ヶ谷・理工・文系～

新収資料紹介

INFORMATION

このたび、ロンドン万博（“The Great Exhibition of the Works of All Nations” 1851年）関連史料が中央図書館に納められたことに寄せて、その資料と万博の意味を考えてみたい。ロンドン万博は言うまでもなく、「世界の工場」として発展したイギリスの工業力を誇示する、世界最初の国際博覧会である。その展示館・水晶宮は鉄とガラスで造られ、それ自体この博覧会の象徴であった。さて、今回購入された史料は、以下の通り。

- ①Dickinson's comprehensive pictures of the Great Exhibition of 1851 (London 1854) (貴重606N25)
- ②The Great Exhibition 1851, : official descriptive and illustrated catalogue, Vol.1-3 (Royal Commission 1851) (貴重M606G78)
- ③The Great Exhibition 1851, Reports by the juries on the subjects in the thirty classes into which the exhibition was divided, Vol.4 (Royal Commission 1852) (貴重M606G78)

史料①は、博覧会開催セレモニーや各展示ブース、集う人々の様子などを描いた画集。色鮮やかに当時を偲ばせる（口絵を含む本号所収の4点は、その一部である）。所載画は、ロンドン万博に関する書にしばしば引用されるが、「孫引き」の場合が少なくない。国内での所蔵の有無は寡聞にして不明（少なくともWebcatなどの検索ツールではヒットしない）だが、筆者が原本を手にするのは、これがはじめて。

また史料②は出品カタログで、各国の展示品が詳細に記録されている。史料③は史料②の続刊で、30の分類項目に基づいて設置された評価委員会のレポート。技術の歴史に燦然と輝くエンジニアたちが、委員に名を連ねている。この②③が、ロンドン万博研究のもっとも基本的な史料。日本の研究者は、たとえば大阪中之島図書館所蔵のものを早くから利用していた。本学においても1970年代に、複製本され原型を留めぬものが購入されている。今回、この原本が収蔵されたことは大変喜ばしい。

万博開催に至る経緯は、ビクトリア女王とその夫アルバート公抜きには語れない。少女時代に女王の座に着いたビクトリアは、ホイッグ党指導者で首相を務めたメルバーンを慕い、口さがない者に、Mrs. Melbourneと呼ばれたという。1840年、従兄弟とはいえ、ドイツ国籍のアルバートと結婚する。イギリス国民の眼には幾分醒めたものがあった。アルバート公は勤勉であり、またそうでなければならなかった。

彼を会長にいたく王立技芸協会は、1840年代に一連の展示会を開催する。その成功がロンドン万博の基



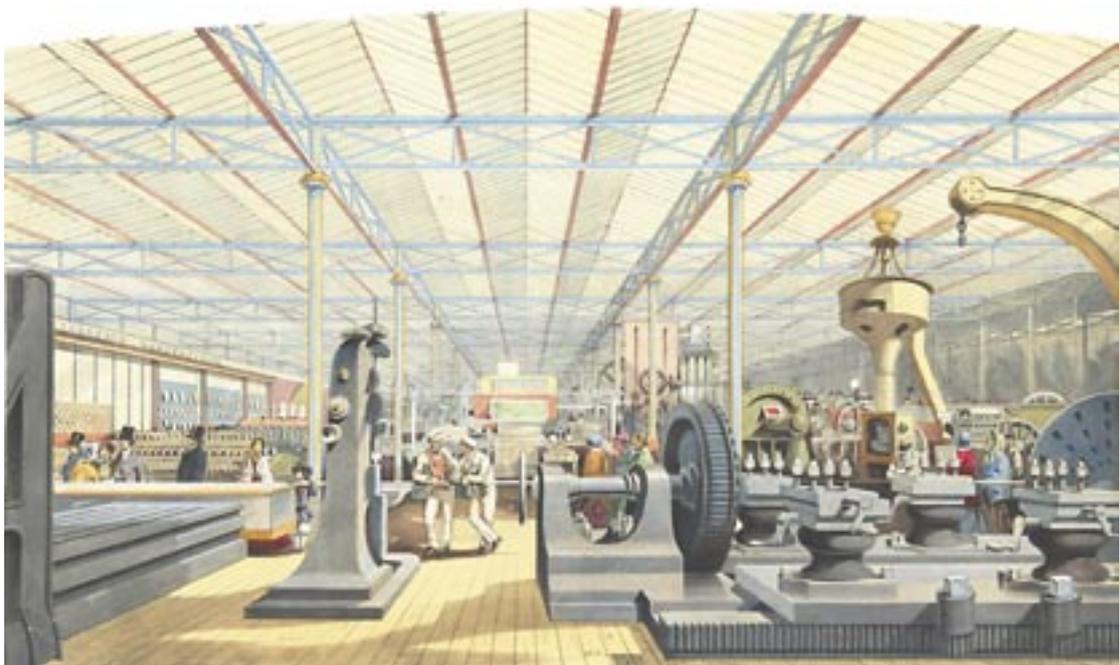
博覧会会場（水晶宮）外観

礎にあった。革命家が跋扈する、技術が国外に流出する、など万博開催を危惧する声も上がったが、予想を超える参加者が集い、順調に会期は進行した。創刊間もない風刺漫画誌“Punch”も、初めの揶揄する調子から、次第に熱狂的礼賛へと変化する。1970年に開催された大阪万博（会期3月15日～9月13日）が64,218,770人を集めたことを知るものにとっては、ロンドン万博（会期5月1日～10月15日）の参加者6,039,195人は、小規模に思えるかもしれぬが、当時の人口や交通システムを勘案すると驚異的な数字と考えられよう。



インド館内観

開催には30万ポンドを要したが、その収入は50万ポンドに達し、この収益によって現在のロンドンのサウスケンジントンの博物館街ができ上がった。ここには、アルバートの名を冠する施設がいくつもある。彼が女王の夫に与えられる称号Prince Consort で呼ばれたのは、この博覧会成功後のことであった。工業化の弊害も次第に明らかになる時代に、かくも成功した万博であるから、様々な視点から研究が進められている。経済史や技術史分野に限らず、文化史、文明史的立場からも、盛んに展開されている。科学・技術に対して、些か懐疑的雰囲気漂う現代人にとっては、この後者の視点が受けるのかもしれない。万博それ自体ではなく、周辺の史料を援用し「イメージとしての博覧会」を議論する研究が、言葉は悪いが、最近の流行りと言えよう。世界貿易額において、2位フランスに倍以上の差を付けていたイギリスであったが、アメリカの互換性部品製造を基礎に置く量産技術の迫り来る恐怖をも感じた博覧会であった。この現代技術の胚胎期の分析は、いまだ不十分であることを、これらの史料をひもときながら痛感する。自戒・自責の念も込めて。



工作機械類展示館

**住所**：〒105-7090 東京都港区東新橋1-8-2カレッタ汐留地下1階

**TEL**：03-6218-2501

**FAX**：03-6218-2505

**URL**：http://www.admt.jp/

**蔵書検索**：http://www.admt.jp/library/

**利用資格**：無条件

**開館時間**：火～金曜日 ミュージアム 11：00～18：30（入館は18：00まで）

広告図書館 11：00～18：00（入館は17：30まで）

土・祝祭日 ミュージアム 11：00～16：30（入館は16：00まで）

広告図書館 11：00～16：00（入館は15：30まで）

**休館日**：日曜日・月曜日（ただし祝祭日・振替休日の場合は翌日）

**サービス**：閲覧・レファレンス・複写

**蔵書数**：約15,000冊（和書 12,576冊 洋書 2,668冊）、AV資料 約170点、  
雑誌 133種（和雑誌 109種 洋雑誌 24種）

**交通アクセス**：JR・地下鉄新橋駅より徒歩5分、ゆりかもめ汐留駅より徒歩1分

**座席数**：24席、蔵書検索機2台、AdDAS（収蔵品画像データベース）2台、AV再生装置1台

広告図書館は、マーケティングと広告を学ぶ人のために、日本で唯一の広告専門図書館として1966年に開設されましたが、2002年12月、話題の街“汐留”の「カレッタ汐留」に移転し、総合的な資料館「アド・ミュージアム東京」として生まれ変わりました。

広告関連の図書・資料が閲覧できる「広告図書館」では、貸出は行っていませんが、1万冊余の蔵書はほぼ開架式で自由に手に取ることができる他、CM作品集などAV資料も館内のモニターで自由に閲覧できます。また、収蔵する約10万点広告作品、資料をデジタル化した、「AdDAS」というアーカイブシステムも備えています。

ポスターやCMなどの広告作品を閲覧・視聴できる「展示施設」では江戸時代から現代までの広告が時代順に並べられており、なつかしのCMなどは館内に置かれたモニターで検索できます。

広告・マーケティング研究の際に貴重な情報機関となるのは勿論のこと、広告関連企業への就職活動の下調べにも役立つことでしょうし、ミュージアムで宣伝の今昔を楽しむだけでも足をむけてみてはいかがでしょうか。

## Voice

津田 乃里子

「うおーっ!」「すげー!」この言葉で記憶が6年前まで遡った。母校の大学図書館を初めて見た時、「小さくて綺麗な図書館?いや、図書室…」と少々がっかりしたものだ。出身高校の図書館は、女子大と短大が同じ敷地内にあったことも関係し、1学部1学科の大学図書館よりはよほど重々しい立派な風貌に映っていた。実際のところ、大学の図書館は主に自習室として利用され、読んでみたい資料等は先生から借りるような現状だった。蔵書数の少なさに対する不満は、学生・教授陣から共に多かったように感じる。それでも時間が経つにつれ、「まっ、仕方ないか」「他で探そう」と、気持ちも変化していった。だから、入職当初の理工学部分

館図書室研修では、「1学部でも学科が多いとこんなにまで図書館は充実するのか」と感動した。本配属で中央図書館勤務となり、開架・中央書庫の書棚を見た時は、感動を超えて興奮した。先日まで開催していた新入生オリエンテーションで書庫を案内する際に、学生のどんなリアクションを見られるのだろう、と人知れず期待し、ドキドキしていた。驚嘆の声でニヤリ♪心の中でガッツポーズ!「そうでしょ、そりゃ驚いちゃうよね!? 嬉しいでしょ?」思わず聞いてみたくなる。一番怖い事は、図書館に対する関心を利用者が喪失すること。皆の図書館なんだから、不満でも要望でも、一杯声を聞かせて欲しい。新入生の声は、私に初心を思い出させ、原点を教えてくれた気がする。

(図書館閲覧課)

# Library Navigator

## 雑誌記事や論文を探してみよう

授業やゼミである課題が出た。そうした場合に自分の課題や研究テーマに沿った論文や図書を集め、先行研究について調べることが大切です。図書から得られる情報も有用ですが、それだけでは資料が足りず、図書には出てこないような該当するテーマについてもっと掘り下げた雑誌論文記事がほしい。そうした場合に、論文の引用（参考）文献を芋づる式にたどってみたり、テーマに関連する雑誌の目次を追っていくのもひとつですが、必要な記事を効率的に探すには、国内最大の雑誌・論文情報データベース「MAGAZINEPLUS」が有効です。

## MAGAZINEPLUSとは

雑誌記事情報670万件に加え、戦後国内の学術雑誌が刊行した年次研究報告や学術論文集の論文タイトル情報を加えた総計719万件にのぼる国内最大規模の雑誌・論文情報データベースです。

## MAGAZINEPLUS接続方法

- ①中央大学図書館トップページ<http://www2.chuo-u.ac.jp/library/>のメニューにある「外部オンラインデータベース」をクリック
- ②「外部オンラインデータベース検索」ページの「日外MAGAZINE PLUS」をクリック
- ③「日外MAGAZINEPLUS」紹介ページ下段のボタンをクリックし、ログインし検索画面へ。



MAGAZINEPLUSでは、探しているテーマに関するキーワードや著者名などから求める記事・論文のタイトル、著者名、収録雑誌名・巻号などを調べることができます。

## 読みたい論文の雑誌名、巻号、ページが特定できたら…

CHOISで中央大学で該当する雑誌が所蔵されているかどうかを確認します。MAGAZINEPLUSの詳細画面でCHOIS所蔵確認のリンクが表示されている場合はリンクをクリックすることでも確認できます。CHOISで所蔵確認したうえで、CHOISの配置場所をもとに、求める雑誌を利用してください。

MAGAZINEPLUSは中央大学のキャンパス内でのみ利用可能となっています。同様な雑誌論文を検索できるデータベースに国立国会図書館が無料で公開している「NDL-OPAC雑誌記事索引」<http://opac.ndl.go.jp/index.html>があります。こちらもぜひ活用してみてください。

## 都心キャンパス紹介

### 市ヶ谷キャンパス図書室の紹介

市ヶ谷キャンパスは2000年に本学に加わった一番若いキャンパスです。都営新宿線曙橋駅から徒歩5分、東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅から徒歩12分程度の立地で、いわゆる大学の都心回帰にぴったりの場所です。

当図書室は、キャンパスの開業に合わせて設置された図書室を前身にこの4月には国際会計研究科・法務研究科の専用の図書室として衣替えを行いました。4階にはおもに図書と雑誌を配置し、3階には閲覧席を中心に配置しています。また、データベース検索用のコンピュータをそれぞれの階に設置しています。所蔵している図書の数はまだまだ少ないのが現状ですが、株式・ファイナンス・法情報といった専門職大学院の教育に必要な電子的情報（オンライン・データベース）は充実していると自負しています。



市ヶ谷キャンパス図書室 4階閲覧室

すでに述べましたように、この図書室は専門職大学院専用で、2つの研究科の教育に密接に関わっています。そのことから利用者の要求・要望にどのように応えていくかが図書室運営の重要な視点であると考えています。

現在、データベース講習会の開催、専門主題の資源の収集・提供、また電子的な方法・手段を整備しながら、図書室に来なくても要件が達せられるような環境の整備を模索しています。

\*利用対象者 専門職大学院学生、本学の教員

[http://www2.chuo-u.ac.jp/library/ichigaya\\_top.htm](http://www2.chuo-u.ac.jp/library/ichigaya_top.htm)



後楽園キャンパス理工学部分館5階閲覧室

### 理工学部分館

理工学系の図書、雑誌を所蔵しています。また一般的な雑誌、新聞を館内で閲覧・コピーすることができます。6階が受付になりますので、学生証を提示しながらお入りください。5階が閲覧室、7階が書庫になります。

（4年次以上の学部学生の方の入庫には申請書による手続きが必要です）

<http://www2.chuo-u.ac.jp/library/rikotop.htm>



後楽園キャンパス文系大学院図書室

### 文系大学院図書室

おもに、大学院法学、経済学、総合政策、商学研究科の都心における研究教育活動を支援する図書室です。席数も限られているため大学院学生と教員の専用利用施設としています。文系の学部学生に関しては、後楽園キャンパスで大学院の授業を受けている人のみ利用可です。蔵書も主題を限定し、充実した電子的情報の活用環境と専門主題レファレンスサービスが特徴です。

[http://www2.chuo-u.ac.jp/library/bunkei\\_top.htm](http://www2.chuo-u.ac.jp/library/bunkei_top.htm)

# 新収資料紹介

## ①教職員著作目録 2004.1 - 2004.4 ( )は所属学部等

著者名	書名	請求記号	配置場所	出版者
有賀 裕二 (商学部) 著	進化経済学の数理入門	331.19/A53	開架・中央	共立出版 (経済社会の数理科学9)
飯田 朝子 (商学部) 著	数え方の辞典	D815.2/I26	開架・参考	小学館
白井 久和 (法学部)、馬橋 憲男 編	新しい国連	319.9/U95	開架・中央	有信堂高文社
長田 光展 (文学部) 著	内と外の再生	932/O72	開架・中央	鼎書房
片倉 もと子 (総合政策学部)、梅村 坦 (総合政策学部)、清水 芳見 (総合政策学部) 編	イスラーム世界	302.28/Ka82	開架・中央	岩波書店
上林 靖子 (文学部) 他 著	ADHD (注意欠陥/多動性障害) : 治療・援助法の確率を目指して	493.937/Ka48	開架・中央	星和書店 (心のライブラリー9)
木田 元 (名誉教授) 編	一日一文	159.8/Ki12	開架・中央	岩波書店
木田 元 (名誉教授)、渡部 昇一 著	人生力が漣を呼ぶ	289/Ki12	開架・中央	致知出版社
アンドレ・コントニスボンヴィル 著 木田 元 (名誉教授) 他 訳	幸福は絶望のうえに	151.6/C85	開架・中央	紀伊国屋書店
小島 武司 (法学部) 著	Civil procedure and ADR in Japan	入荷待ち	中央	中央大学出版部
小林 秀徳 (総合政策学部) 著	お金持ちになる人ならない人	330.4/Ko12	開架	ワニブックス
斉藤 孝 (文学部) 著	「記録・情報・知識」の世界—オントロジ・アルゴリズムの研究	014.9/Sa25	開架・中央	中央大学出版部
鈴木 隆介 (理工学部) 著	建設技術者のための地形図読図入門 第4巻	454.9/Su96	文共・理開	古今書院
鈴木 重生 (名誉教授) 著	サン・モールの月	入荷待ち	開架・中央	青柳堂
角田 邦重 (学長)、山田 省三 (法科大学院) 編	労働法解体新書 補訂版	366.14/Su58	開架・中央	法律文化社
立石 二六 (法学部) 著	刑法総論 補正版	326.1/Ta94	開架・中央	成文堂
所 雄章 (名誉教授) 著	デカルト「省察」訳解	135.1/D64/To34	中央	岩波書店
直江 重彦 (総合政策学部) 著	ネットワーク産業論 改訂版	602/N49	開架・中央	放送大学教育振興会
中沢 新一 (総合政策学部) 著	対称性人類学	389/N46	開架・中央	講談社 (講談社選書メチエ291)
ドゥルス・グリューンバイン 著 縄田 雄二 (文学部) 編訳	ドゥルス・グリューンバイン詩集	941/G89	中央・理工	中央大学出版部
服部 龍二 (総合政策学部) 著	国際政治史の道標	319.02/H44	開架・中央	中央大学出版部 (現代政治学双書15)
林 昇一 (総合政策学部)、高橋 宏幸 (経済学部) 著	現代経営戦略の潮流と課題	336.1/H48	開架・中央	中央大学出版部 (経済研究所研究叢書37)
平山 令二 (法学部) 著	ドイツ語文法	845/H69	開架・中央	中央大学出版部
藤井 健三 (名誉教授) 著	アメリカ英語とアイリッシュム	830.25/F57	中央・理工	中央大学出版部 (中央大学学術図書58)
船越 隆司 (法学部) 著	担保物権法 第3版	324.3/F89	開架・中央	尚学社 (理論と実際の体系3)
古川 肇 (元職員)、和中 幹雄 訳	書誌レコードの機能要件	M014.3/Ko51	開架・中央	日本図書館協会
古城 利明 (法学部)、矢澤 修次郎 編	現代社会論 新版	361/F93	開架・中央	有斐閣 (有斐閣Sシリーズ)
堀内 捷三 (法科大学院) 著	刑法総論 第2版	326.1/H89	開架・中央	有斐閣
升田 純 (法科大学院) 編著	名誉毀損・信用毀損の法律相談	326.25/Ma66	中央	青林書院 (新・青林法律相談6)
丸山 秀平 (法学部) 著	やさしい会社法 第6版	325.2/Ma59	開架・中央	法学書院
丸山 秀平 (法学部)、野村 修也 (法科大学院) 著	ケースブック会社法	325.2/Ma59	開架・中央	弘文堂 (弘文堂ケースブックシリーズ)
三浦 信孝 (文学部) 編	近代日本と仏蘭西	319.1035/Mi67	開架・中央	大修館書店
矢内 一好 (商学部) 著	詳解日米租税条約	345.1/Y54	開架・中央	中央経済社
山口 明徳 (文学部) 著	日本語の論理	810.4/Y24	開架・中央	大修館書店
横田 洋三 (法学部) 著	日本の人権/世界の人権	316.1/Y78	開架・中央	不磨書房 信山社 (発売)
ヤヌシュ・シモニデス 編著 横田 洋三 (法学部) 監修	国際人権法マニュアル	239.32/Sy5	中央・市ヶ谷	明石書店
中央大学総合政策研究科 経営グループ監修 鈴木 敬文 (イトーヨーカドー社長) 他著	21世紀日本企業の経営革新—コーポレート・ガバナンスの視点から	335.2/C66	開架・中央	中央大学出版
中央大学人文科学研究所 編	芸術のイノベーション—モード、アイロニー、パロディ	702.06/C66	中央	中央大学出版部
中央大学図書館 (現職員) 編	中央大学所蔵 名鑑類解題目録	M029.7/C66	中央・理工	中央大学図書館

\*配置場所の記載は2カ所までとした。

## ②中央大学関係資料目録 2004.1 - (貴重書・準貴重書指定)

著者	書名	請求記号
高橋 健二 草稿	「がらす絵を読んで」	K944/Ita33
中沢 新一 草稿	「ジャングルの哲学」	K104/N46
和田 芳恵 草稿	「小説・永井荷風」	K913.6/W12
長谷川 如是閑 原稿	「国家形態に於ける戦争の必然とそれの回避」	K289/H36
長谷川 如是閑 原稿	「自分の縄で自分を縛る者」	K289/H36

書簡	送付宛先	請求記号
* 和田 芳恵	三木 章宛 封書	K910.26/W12
* 和田 芳恵	三木 章宛 封書	K910.26/W12
* 和田 芳恵	三木 章宛 封書	K910.26/W12
* 和田 芳恵	和田 豊彦宛 葉書	K910.26/W12
* 稲葉 修	菅原 宏一宛 葉書	K289/I51
* 稲葉 修	菅原 宏一宛 封書	K289/I51
* 稲葉 修	菅原 宏一宛 封書	K289/I51
* 石原 八束	渡辺 春輔宛 封書	K289/I74
* 石原 八束	渡辺 春輔宛 封書	K289/I74
* 石原 八束	渡辺 春輔宛 封書	K289/I74
伊東 巳代治	* 奥田 義人宛 封書	K289/I89
岡田 良平	* 奥田 義人宛 封書	K289/O38
小川 平吉	* 奥田 義人宛 封書	K289/O24
加藤 弘之	* 奥田 義人宛 封書	K289/Ka86
加藤 正義	* 奥田 義人宛 封書	K289/Ka86
加藤 正義	* 奥田 義人宛 封書	K289/ka86
菊池 大麓	* 奥田 義人宛 封書	K289/Ki24
九鬼 隆一	* 奥田 義人宛 封書	K289/Ku28
古賀 廉造	* 奥田 義人宛 封書	K289/Ko24
豊川 良平	* 奥田 義人宛 封書	K289/To86
* 原 嘉道	* 奥田 義人宛 封書	K289/H31
* 穂積 陳重	* 奥田 義人宛 封書	K289/H97

\*: 本学関係者



### 貴重書・準貴重書の利用について

貴重書、準貴重書の閲覧は館長の許可を要するため事前の手続きが必要です。

詳しくは中央図書館2階カウンターに、お問い合わせ下さい。

なお、大学院生は指導教員の推薦状が、学部学生は指導教員の同伴が必要となります。





### (1) 「安東大学校（韓国）来訪」

3月24日(水)に韓国・安東大学校から、李図書館長他3名の方が、中央図書館の見学に来館されました。今回の見学の目的は、安東大学校図書館が移設を予定されており、計画の参考のための見学であります。今回の来日では、本学の他、東京大学、早稲田大学、日本大学、明治大学を見学されました。

### (2) 「私立大学図書館協会協会賞受賞」

本学図書館で刊行いたしました「中央大学図書館史稿」（2003年3月31日）が、2003年度私立大学図書館協会協会賞を受賞いたしました。2004年度総会（青山学院大学）にて表彰が行われることになりました。

### (3) 中央大学所蔵「名鑑類解題目録」発刊

本学で所蔵している江戸中期から明治20年代までの名鑑類23点の目録およびその解題として、発刊されました。編集・執筆については、鈴木俊幸文学部教授の支援のもと、図書館員3名（太田澄子、金津有紀子、斎藤理香）が行いました。

### (4) 「休日開館（7月）情報」

- 1) 中央図書館  
7月11日(日)、18日(日)、25日(日) 10時から18時まで開館。
- 2) 理工学部分館  
7月18日(日)、25日(日) 10時から18時まで開館。

### (5) トーマス・ハーディ資料提供

ちくま文庫／トーマス・ハーディ著；井出弘之訳（本学法学部兼任講師）「テス」（上）・（下）に、本学図書館のハーディ・コレクション「ターバヴィル家のテス」の挿図が使用されました。

### (6) 企画展示

本号で紹介された「ロンドン万博関係コレクション」について、下記の日程で展示を行います。実際の資料を是非ご覧下さい。

期間：10月4日(月)～10月15日(金)

場所：中央図書館2階ホール（展示ケース）

### 編集後記

みなさんに新生「MY CUL」の創刊号をお届けいたします。従来刊行してまいりました「研究者用CUL」と1999年以来休刊となっておりました「学生用CUL」とを統廃合し、リニューアルした「MY CUL」として第一歩を踏み出すこととなりました。

「MY CUL」では、図書館が所蔵する貴重資料や重要コレクションの紹介、みなさんの学習活動に役立つ各種の情報ツール活用法のご案内、一度は訪れてみたい専門機関の紹介、中央大学関係者の出版物や図書館が最近収集した主要資料の紹介など、バラエティあふれるコーナーの数々を用意しています。

この新広報誌「MY CUL」では、みなさんの目に留まり、図書館員の思いが直接伝わるような誌面をこころがけますので、今後ともご支援いただき、ご愛読いただきますようお願いいたします。